

内部障がいのある方【免疫】をサポートするとき

【大切なこと】 ひとり、ひとりの状況を把握しましょう

■ 主な特性等

- ヒト免疫不全ウイルス（HIV）による免疫機能の低下が代表的で、治療の段階や合併症の有無により医療的ケアが必要な場合があります。
- 発病していない場合や症状が軽い場合は、特別な対応はいりません。
- 治療の段階や合併症の有無等により、活動制限が異なります。
- ウイルスの感染力は極めて弱く、日常的な接触や空気では感染しません。

■ 避難誘導の仕方

- 安否確認時に安全な場所において、医療機器の継続使用が可能な状態であることを確認しましょう。
- より本人の状態に適した避難場所への移動を希望するかを確認しましょう。

【自力で避難することが困難な場合】

車いすやストレッチャー等の移動用具を確保することが望ましいですが、移動用具が確保できない場合には、毛布等で作った応急担架により避難をお願いします。また、必要に応じ、迅速に安全が確保された医療機関への誘導・移送をお願いします。

【免疫機能障がいのある方が出血した場合】

ゴム手袋等を使用し、直接血液に触れないようにしましょう。

■ 避難生活支援で気をつけること

- 薬やケア用品の確認と、各種装具・器具用の電源等の確保をお願いします。
- 医療器材の消毒や交換をするときは、清潔な治療スペースが必要になります。
- 医療的措置が必要と判断される場合は、安全が確保された医療機関へ速やかに移送をお願いします。

【避難所での支援】

- 免疫力や体力が低下したり、装具・器具の交換等が必要な方のために、衛生等、環境に配慮をお願いします。
- 非常食で対応できない場合があるので、食事療法に合致した飲食物の確保をお願いします。
- 避難所周辺の医療関係者、かかりつけ医等との連絡方法の確保をお願いします。

■ 災害発生時に困難なこと

- 症状により自力歩行や素早い避難行動が困難な場合があります。
- 電源喪失等により医療機器の継続使用が出来ないことがあります。

■ 本人、家族等から支援者へ (知っておいてほしいことを記入しましょう)

(自由記入欄) (例) 発病していない場合や症状が軽い際は特別な対応はいりませんが、情報が他に漏れないよう対応してください。

■ 避難するときに気をつけること

- 無理な避難行動は避けましょう。
- 状態に適した避難場所への移動が必要か判断したうえで避難しましょう。

■ 避難生活で気をつけること

- 各種装具・器具用のための電源等を確認しましょう。
- 医療的措置が必要と判断される場合は、安全が確保された医療機関へ速やかに移動しましょう。
- 医療器材の消毒や交換をするときは、清潔な治療スペースが必要になります。
- 食事制限がある場合は、食事療法に合致した飲食物を摂取するように心掛けましょう。